

令和5年（2023年）7月6日

## 伊達政宗はいつ家督を相続したのか

### ～最上義光宛伊達政宗文書を通じて～

#### 【本件のポイント】

- 戦国大名伊達政宗研究は大いに盛んであるが、まだまだ謎に包まれている。そこで、今回、右写真の天正12（1584）年某月12日付の最上義光宛伊達政宗書状を読み直した。
- その政宗書状の内容から、それは天正12年10月12日付のものと確定した。
- それにより、（1）政宗の家督継承は10月12日には決定していたこと、（2）天正9年の政宗初陣とされる小斎の戦いに最上義光が加勢していたことなどがわかる。それゆえ、伊達政宗・最上義光関係の研究が発展することが期待される。



#### 【概要】

都市・地域学研究ユニット（都市研と略す）は、研究員である山大名誉教授の松尾剛次氏を中心に、山形偉人再発見プロジェクトの一環として、最上義光研究を行ってきた。その過程で、最近、兵庫県立博物館所蔵の天正12（1584）年某月12日付の最上義光宛伊達政宗書状の読みなおしを行った。当該書状には、年付けはなく、月付けも消えているが、内容から従来は、天正12年6月12日付の書状と考えられてきた。というのも、手紙の内容が、天正12年6月7日に白鳥長久が殺された事件を伝えていることと、「未拙子代二無之候」（まだ家督を継いでいない）とあるように、伊達政宗が家督継承以前の文書と考えられたことによる。また、花押も家督継承以前のものである。しかし、文末には、天童氏討伐が終わった（10月10日）らしいことが書かれていることや、政宗が軍事指揮権（家督の専決事項）を継承したことを伝えていることなどから、天正12年10月12日付けの文書と考えられる。とすれば、政宗が家督継承したばかりの文書となる。政宗は、家督継承を伝えられ、すぐに伯父の義光に伝えたのであろう。それゆえ、花押も継承前のものが使われたと考えられる。政宗の家督継承は、天正12年10月6日から23日までのいつかとされてきたが、12日には決定していたことがわかる。また、政宗の初陣とされる小斎（宮城県伊具郡丸森町）の戦いに、義光が加勢していたことがわかり、伊達政宗・最上義光の関係が良好であったことが知られる。政宗の伝記研究に新たな光を当てることができたばかりか、伊達政宗・最上義光の関係研究にも裨益するであろう。

#### ※用語解説

1. 山形偉人再発見プロジェクト：都市研は2008年以来、最上義光、安達峰一郎といった偉人でありながらも光が当てられて来なかった人物に注目した研究を行っている。
2. 白鳥長久：長久（？～1584）は、戦国時代の出羽武将で、谷地城主であった。織田信長を騙して出羽守に任じられたが、義光の申し出により、それが偽りであったことがわかった。そのため、信長は白鳥殺害を義光に命じ、天正12年6月7日に義光によって殺害された。
3. 天童氏：最上氏の一族で天童を治めた。天童頼久は最上義光と戦ったが、天正12年10月10日に宮城の国分氏を頼って逃亡した。

お問い合わせ

山形大学都市地域学研究ユニット

TEL 023-628-4871 メール toshiken@human.kj.yamagata-u.ac.jp

## 伊達政宗の謎 いつ家督を継いだのか

天正一二年（1584）一〇月一二日付政宗書状を手がかりに

伊達政宗（1567～1636）といえば、戦国・近世大名の一人で、大河ドラマ「独眼竜政宗」などで知られる。それゆえ、政宗研究は大いに盛んであるが、謎も残されている。その謎の一つにいつ家督を継いだのかがある。

従来は、伊達藩の正史である『伊達治家記録』一（277頁）によって、家督相続を天正一二年（1584）一〇月六日から二二日の間の出来事とする。基本的にそれは支持できるが、もう少し期日を限定できないのであろうか。

ここでは、写真にあげた兵庫県立博物館所蔵の天正一二年某月一二日付政宗書状に注目する。以下に主要部の現代語訳を掲げる。

わざわざ使者を遣わして申し述べます。さて、この度、そちらで白鳥長久ならびに氏家が殺害されたとの話を聞き、内々に心配しておりました。使いに鉄炮などを差し添えて、そちらに派遣したく思っておりましたが、あれこれなく無事に静められたと聞き、そうしませんでした。事新しく申すことですが、（私の初陣である）小斎（宮城県伊具郡丸森町）を攻めました際にも数度加勢されました。今でも忘れ難く思っております。また、**天童攻めで手いっぱいの際は、こちらからも加勢に及ぼうと思いましたが**、まだ私は家督ではなかったもので、心では思いながらも延引しました。**しかしながら、ただ今には、事が起こって、御用があるようでしたら、不断の者（忠義の者）どもを、差し越しますので、これまで親類であることといい、この度にも、御遠慮なく承けたまります。**

引用したのは、某月一二日付最上義光宛の伊達政宗書状である。ただ、年付けもなく、また、月の部分もかすれて、何月かはっきりしないが、従来は六月とする。

それは、手紙の内容が、（1）天正一二年六月七日に殺された白鳥長久殺害事件を伝えていることと、また、（2）「未拙子代＝無之候」（まだ私は家督ではなかったの）と書かれていること、（3）花押も家督継承以前のものであることなどにより、この手紙は伊達政宗が家督継承以前の文書と考えられたことによる。

しかし、文末（赤字の部分）には、天童氏討伐が終わった（天正一二年一〇月一〇日）らしいことや政宗が軍事指揮権（家督の専決事項）を継承したことを伝えていることから、天正一二年一〇月一二日付けの文書と考えられる。とすれば、政宗が家督継承したばかりの文書となる。家督継承決定直後に、政宗は昂揚した気持ちで、伯父である義光に伝えたのであろう。

（注）

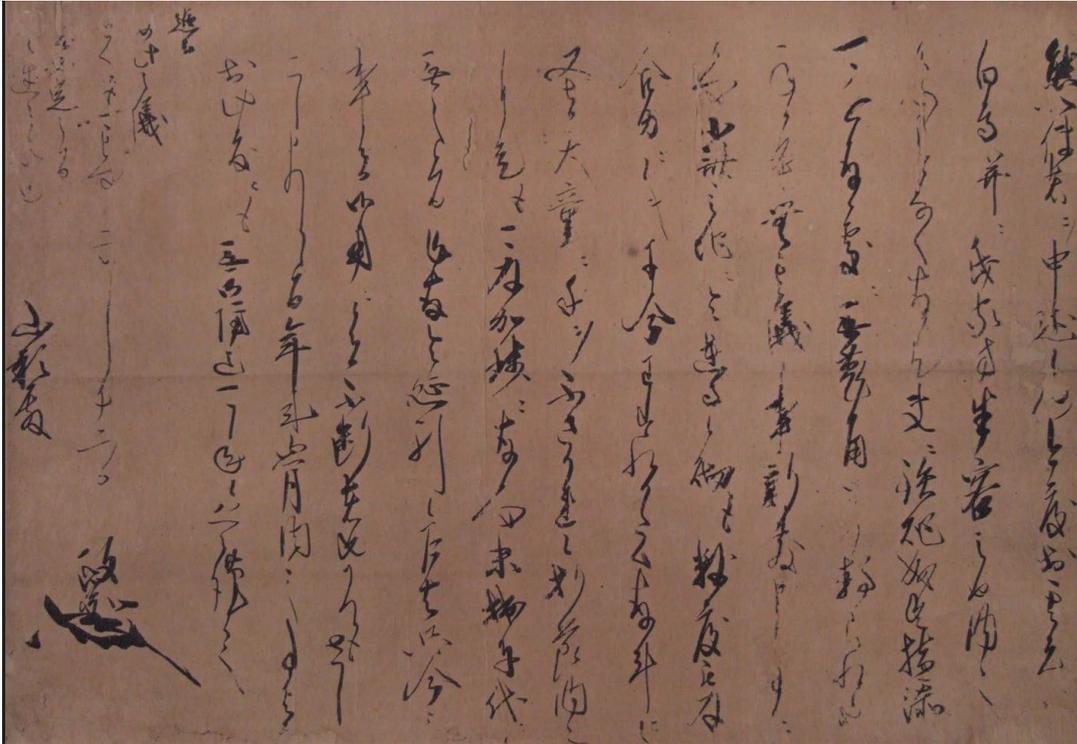
1 伊達輝宗：1544～1585、天正12年10月6日、会津領主蘆名盛隆が家臣に殺害されると、生後僅か1ヶ月で当主となった盛隆の子・亀王丸の後見となる。輝宗はこれを期に政宗に伊達家の家督を譲ることを決めた。

2 白鳥長久：長久（？～1584）は、戦国時代の出羽武将で、谷地城主であった。織田信長

を騙して出羽守に任じられたが、義光の申し出により、それが偽りであったこと明らかとなった。そのため、信長は白鳥殺害を義光に命じ、天正12年6月7日に義光によって殺害された。

3 小齋：宮城県伊具郡丸森町、天正9（1581）年5月に政宗は輝宗とともに初陣す。

4 天童氏：最上氏の一族で天童を治めた。天童頼久は最上義光と戦ったが、天正12年10月10日に宮城の国分氏を頼って逃亡した。



翻刻

〈天正一二（1584）年〉一〇月一二日付 最上義光宛伊達政宗書状 〔豎紙〕

態以使者ヲ申述候、仍今度於其元、」①白鳥〈長久〉并ニ氏家方生<sup>(軍)</sup>客之由、内々」御心も  
 となく存候て、使ニ鉄砲成共指添、」可進存候処ニ、無菟角とり静られ候由、」承候条、  
 無其儀候、事新敷申候事ニ」候へ共、小齋之地ニ令出馬候砌ニも、数度被及」合力ニ候キ、  
 于今わすれかたく存計ニ候、」又者②天童ニ手ヲふさかれ候折節、内々」自是も可及加勢ニ  
 存候へ共、③未拙子代ニ」無之候間、乍存延引候、④乍去只今ニ」事候而、御用ニ候者、不  
 断者共にても、さし」こし申へく候間、年来骨肉之事与云、」於此度ニも、無御隔意、可  
 承候、恐々謹言、

（奥上追書）

追而、」如此之儀、」とくニも可申候へ共、」無必定之間、」令遅々候、  
 以上、

十（カ）月十二日 政宗（花押）

山形殿（最上義光）

〈『仙台市史資料編 13』二九八頁に翻刻、『仙台市史資料編 13 伊達政宗文書4別冊』  
 一二八頁に写真、兵庫県立博物館所蔵、2003年に発見される〉。